

## 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成22年1月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070502242		
法人名	医療法人 心愛		
事業所名	グループホーム ドレミ		
所在地 (電話番号)	〒800-0213 福岡県北九州市小倉南区中曽根四丁目14-6 (電話)093-474-4122		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成22年1月19日	評価確定日	平成22年1月28日

## 【情報提供票より】(平成21年12月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	14 人 非常勤 6 人 常勤換算 5,6 人

## (2) 建物概要

建物形態	単独型	築	5 年
建物構造	鉄筋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,500~42,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 13,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	500 円	おやつ 0 円
	または 1日 当たり 円		

## (4) 利用者の概要(平成21年12月30日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	76 歳	最高	99 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山崎リゾートクリニック	北九州総合病院	小倉蒲生病院
---------	-------------	---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「社会的交流を確保し、家庭的で温かい雰囲気の中で、人としての尊厳や生きがい、自立を目指し、安全、安心な生活を図っていく」を理念として掲げ、郊外の自然が残る環境の中にグループホーム「ドレミ」がある。ベテラン管理者の優しい心使いと、職員のチームワークで、利用者一人ひとりの思いや家族の悩みや要望に応え、利用者の身体機能維持、向上を目指して、理学療法士、医師、歯科医師、マッサージ師の定期的な訪問を行い、きめ細かい健康管理を実践している。また、地区自治会長、副会長、民生・児童委員に運営推進会議に協力してもらい、地域の運動会、敬老会等の行事に参加したり、日々の暮らしの中で近隣住民から野菜の差し入れや散歩時の立ち話等、交流の輪が広がり、今後が期待されるグループホーム「ドレミ」である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は 運営に関する家族等意見の反映 人権教育、啓発活動 災害対策の3件だったが、 とは改善出来ている。 の災害対策は非常災害時の備蓄と夜間を想定した避難訓練は改善出来ている。今後は地域住民の協力をお願いして、避難訓練の実施が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で考え、意見を出し合い、管理者が作成している。管理者は外部評価の意義を職員に説明し、理解してもらい、職員全員で作成に参加している。評価結果を職員は回覧し、会議で話し合い、ホームの長所、短所を再確認し、目標計画を設定している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は2ヶ月毎に開催し、参加者からは、質問、要望、情報等、たくさんの案件が提出されている。ホームからは、現状と行事報告や問題点等を説明し、有意義な会議である。出された意見や要望、質問はホームの会議で討議し、次の運営推進会議で議題として提出したりして、ホーム運営に反映されるように努力している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱を設置し、苦情相談窓口を掲示しているが、ほとんど出てこない。家族からの意見や苦情は家族来訪時に職員が、親しく懇談しながら聴きだしたり、電話等でやり取りし、利用者や家族の悩み、心配事、苦情等を出来るだけ解決出来るように、職員一人ひとりが取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地区の運動会、敬老会、清掃活動等の行事に参加し、近所の方から、野菜の差し入れをいただいたり、利用者と職員が、一緒に回覧版を配ったりして、開設6年を迎え、地域住民との交流も活発である。今後は、身体機能が低下して、行事参加が出来にくい利用者のことを考えて、ホーム行事に地域の方の参加が出来るような工夫を期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの理念の柱である、家庭的雰囲気、社会的交流、人としての尊厳、自立、安全、と五つの理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を利用者、家族、職員の目に触れるところに掲示し、毎月1回職員各自が振り返りを行い理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の一員として、地域の清掃活動や行事などに参加している。老人会には加入していないが敬老会への出席、回覧板を回してもらう時に地域の方々、野菜の差し入れをもらうなど地域の住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員が理解し、前回受けた改善点に関しては職員間で検討し、改善に取り組んでいる。今回の自己評価は、全員で話し合い作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族の代表、包括支援センターの職員、地域の役員、他のグループホームの職員の方の出席のもと、現在の取り組みの状況、外部評価の取組みなど、活発な意見交換が行われている。前回はターミナルケアについての意見交換が行われた。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとは、連携を行っている。相談に行ったり、研修会の情報やパンフレットをもらったりと、行き来する機会が多い。グループホーム協議会を通じての区役所との連携も活発に行われている。		認知症ケアの実践者として、市町村へ発信することも連携に繋がると思われる。今後認知症ケアの研修会の講師派遣なども視野に入れられることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護について学んでいる。成年後見制度や、日常生活支援事業の制度を理解し、利用者や家族に必要な時に必要な情報が伝えられるように努め、必要な人には支援できるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「ふれあい通信」を送付し、利用者の日頃の暮らし振りや、健康状態を報告している。また、同時に預かり金の報告もしている。家族からは一緒に送付したはがきにより返事をもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、なかなか意見は入らない。管理者に意見や要望を言われる家族には真摯に対応している。利用者の、ケアプランの更新や変更のときは、電話や家族の来訪時に要望や意見を聴いている。家族会は、諸々の事情で結成されていない。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はこの1年はない。管理者は、職員の待遇や休暇など職員を取り巻く環境を考慮し、離職者を防ぐ努力に取り組んでいる。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用はこの1年間ない、採用に関しては年齢や性別による制限は行っていない。職員が自己実現できるような体制をとり、権利が十分に保障されるよう配慮をしている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	北九州市のホットハート運動に参加し、職員は人権の約束事運動の項目を理解し、実践に取り組んでいる		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、外部研修や法人内研修に取り組んでいる。研修会への参加は勤務扱いとし、職員が参加しやすいように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に参加し、同業者との交流に取り組んでいる。運営推進会議で他のグループホームの職員との相互訪問を行い交流や意見交換を行っている。		
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は行っていないが、本人や家族がホームを見学し、職員や他の利用者、ホームの雰囲気を感してもらい、本人、家族が安心、納得したうえで入居されるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が日々の生活の中で、一緒に過ごしなが喜びや悲しみを共有している。職員は人生の先輩である利用者から学ぶことが多く、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のかかわりの中で、利用者の一人ひとりの思いや希望を、出来るだけ汲み取るよう努力をしている。困難な場合は家族からの聞き取りや過去の履歴から読み取り、毎日のケアに活かしている。		
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよい暮らしが出来るよう、家族の面会時に利用者、家族の希望を聞き、話し合いし、それを基に管理者、職員、ケアマネージャなど、ミーティング時に意見を出し合い計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月ごとに見直しを行っているが、利用者に変化があればその都度見直ししている。見直しに際しては毎月のミーティングで話し合いを行い見直しに繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の理学療法士が訪問し利用者の身体状況の診察、簡単なリハビリなど身体状況の向上につなげる支援がなされている。又歯科医の訪問診療を受け口腔機能の向上にも取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関を受診している利用者が多いが、入居前からのかかりつけ医の受診も支援している。又専門医の受診も支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで見取りの経験はないが、ターミナルケアの指針を作成している。家族、かかりつけ医、医療専門職との連携、話し合いなどチームを組んで利用者や家族の希望にあった方法を考慮している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳に配慮し、プライバシーを損ねないよう配慮している。また、プライバシーの保護や、個人情報保護に関する勉強会を行っている。個人の記録は鍵のかかる場所に保管し細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なスケジュールはあるが、利用者の、その時そのときの体調、気分を大切にしながら、利用者のペースでその人らしく過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望、栄養面を考慮しその都度立てている、できるだけ料理の数を多くという利用者の希望を取り入れ、いろいろな料理が並び、職員、利用者が同じテーブルで楽しい雰囲気のある食事風景である。介助の必要な利用者にはさりげない支援がなされている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大きな窓から差し込む明かりが気持ちの良い大きな浴室。利用者の状態と希望により、一般浴、機械浴、シャワー浴が時間に制限なく行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴から入居前の趣味などを理解し、その人の持っている力を生かした役割や楽しみを支援している。以前中華料理店で働いていた利用者が作られた美味しい餃子が昼食に出たり、すばらしい絵や書など居間や玄関に飾ってあったりと思いいいに過ごされている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を取り入れ散歩、買い物等戸外に出かけられるよう、支援している。気候の良い日はドライブなど、できる限り本人の希望に添える支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないケアを実践している。鍵をかけることの弊害を理解し、鍵はかけていない、外に出られる様子を察知し、利用者と一緒に散歩したりして対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練は行っている。食料備蓄、避難場所の確保、非難時の防寒具の準備、運営推進会議で地域の方の協力も要請している。地域の人々の協力を得て、夜間を想定した訓練などの要請も行なっている。		地域の方の協力を得られるような訓練、特に夜間を想定した訓練は地域の実情など考慮すればかなり困難かも知れないが、運営推進会議のメンバー等においてお願いして訓練に参加してもらい、工夫等が望まれる。
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量が細かく記載され一人ひとりの状態に応じた支援がなされている。摂取障害のある方にはきざみ食やトロミ食など栄養や水分量を確保できるよう工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
79					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの中心に広い共用の居間があり、玄関には利用者の方のいろいろな作品が飾られて居心地良く過ごされる共用の空間になっている。食卓には季節の花が飾られて柔らかい雰囲気が漂っている。静かで落ち着いた居間、天井からは自然光が入り落ち着ける空間になっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、タンス以外は利用者の馴染みのものが持ち込まれていて、居室も広く居心地の良い居室になっている。位牌を持ち込まれて毎朝お参りをされている利用者の方もあり、思いいいに過ごされる居室になっている。		